

## 資料4 ごみ減量とリサイクルの推進による具体的効果について

ごみを減らし、リサイクルを進めることは、持続可能な循環型社会の構築に向けて必要不可欠なことですが、具体的には、次に示すような効果が得られると考えています。

### 1. 温室効果ガス排出量の抑制による地球温暖化防止

環境工場でごみを焼却することにより、二酸化炭素やメタン、一酸化二窒素などの温室効果ガスが排出されます。

したがって、焼却処理されるごみの量が削減できれば、環境工場から排出される温室効果ガスの排出量が減少し、地球温暖化の防止につながります。

例えば、平成22年10月から開始したプラスチック製容器包装の分別・リサイクルの効果として、焼却処理されるごみの量が年間4,500トン削減できると見込んでおり、環境工場から排出される温室効果ガスの量が年間12,000トン削減されることとなります。

### 2. 新たな環境工場の整備費用（初期コスト）の低減

現在稼働中の環境工場は、焼却炉等の耐用年数を経過して寿命が来れば、新たな施設を整備する必要があります。

新たな環境工場の処理能力、すなわち焼却炉の規模は、その時点での焼却処理すべきごみの量を基準に将来の発生量を予測して算定することから、ごみの減量が進めば、焼却炉の規模を小さく設計することができ、整備費用（初期コスト）の低減につながります。

現在稼働中の西部環境工場の焼却炉の規模が日量450トンであるのに対し、整備を進めている新西部環境工場の焼却炉の規模は、市民の皆様の取組によってごみ減量が進んだ結果、日量280トンまで縮小することができ、これにより、概算で約50億円の整備費用（初期コスト）を削減することができることとなります。

### 3. 最終処分場の延命化

熊本市の最終処分場である扇田環境センターでは、家庭から排出された埋立ごみ、事業系一般廃棄物の内で焼却処理が困難なもの、環境工場で発生した焼却灰、などを埋立処分しています。

最終処分場は、埋立容積が満杯になればそこで処分が終了となってしまいますが、ごみの減量やリサイクルの推進によって埋め立てる廃棄物や焼却灰の量を減らすことができれば、整備当初に想定していた年限よりも延命化することができます。

本市の最終処分場である扇田環境センターの埋立期間は、当初は平成15年度から平成29年度までの15年間の予定でしたが、ごみ減量が進んだことで、約10年間の延命化が図られていると見込んでいます。